

# まほろば



2017.10  
第194号

## クリニカルクラークシップの紹介

弘前病院の役割の一つとして、医師・看護師ならびにパラメディカルの学生ならびに初期研修職員の教育があります。今回は弘前大学医学部医学科 6 年生が受講している『クリニカルクラークシップ』についてご紹介します。

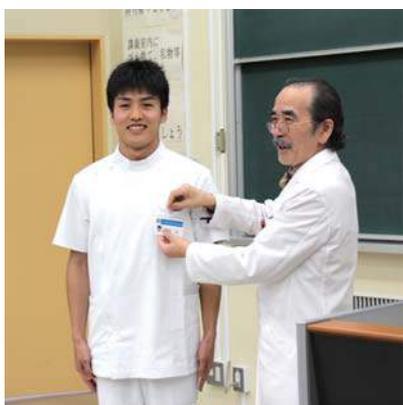
2014 年から、医学科・歯学科では 4 年生の段階で全国一律の合格基準の共用試験が実施されています。共用試験に合格してはじめて「スチューデントドクター [SD] 章」という称号が与えられ、臨床実習への資格が得られます（写真〈左〉）。

弘前大学医学部では 10 年前から、総合診療部加藤博之教授の発案で独自にこの制度を始めておりました。最終学年（6 年）になるとクリニカルクラークシップ（clinical clerkship）が始まります。これは従来の見学型臨床実習とは異なり、学生が医療チームの一員として実際の診療に参加し、より実践的な臨床能力を身に付ける臨床参加型実習のことです。

本年は、4 月より 7 月までの 4 クールで述べ 30 名が、当院で約 1 ヶ月一つの科で実習し、おのおのが受け持ち患者を中心にテーマについて研究発表をしました。6 年生は全体で 135 名ですので約 22% の学生が私ども国立病院を希望し実習に来てくれたこととなります。卒業後の初期研修病院の下見として選択している学生もいて、この中から何人が来年度のマッチング（一種の採用試験）に希望してくるか楽しみなところ です。

患者さんの皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、気楽に声をかけていただければ実習生にとってこの上ない励みになると思っています。

特別統括病院長：藤 哲



（写真〈左〉：たまたま私が医学部附属病院長時代の SD 章授与式（2015 年）で、現在当院で初期研修に励んでいる奥瀬先生が学生時代（5 年生）に学生代表として、章を受け取っているところ。弘前大学医学部提供）



症例発表の様子

# 第11回青森県臨床研修医ワークショップ in 十和田

9月29日・30日の二日間にわたり十和田市立病院担当で第11回青森県臨床研修医ワークショップ in 十和田が開催されました。

例年県内の基幹型病院の初期研修医を対象に青森県主催で開催されるもので、地域医療を題材とした講演、ならびに課題をテーマとしたワークショップが行われます。当院からは8名参加しております。今回のテーマは「食力」で、食を通じた診療に対するアプローチというものでした。具体的には食育、健康増進、栄養状態の改善、嚥下の問題、そしておそらく地域医療でもっとも重要な課題であるところの、「食べることができない」ことに対する包括的ケアが取り上げられました。

超高齢化社会においては結果として「食べられない」ことが主訴となり、医療機関を受診されることが非常に多く、非がん疾患患者（認知症、脳血管障害、老衰、呼吸器疾患、慢性心不全、慢性腎不全、神経難病を対象とした場合）の、死亡前1週間における症状は、食欲不振は83.3%が第一位、嚥下障害は72.3%で第2位でした。このように背景は様々であるにも関わらず、「食べられない」ことが主訴となることが想定されることから、上記疾患群では、頻回に包括的な評価を繰り返し、口腔・摂食・嚥下ケアを含む全人的な医療介入を行うことがとても大切であることなどが報告されました。すなわち、高齢者医療の特徴と独自性として老化が進行し機能が低下した高齢者において

は、高齢者に特有な様々な症候や障害が発生します。廃用症候群、転倒、骨折、褥瘡、失禁、感染症、せん妄といった症候・障害単一ではなくは複合的です。医療だけでなく介護・看護のケアが同時に必要とする症状、所見の総称を老年症候群と定義されますが、わが国の専門医療機関においては、歴史的にこのような教育は十分おこなわれているという状況にはありません。特に強調したいのがポリファーマシーの問題、腎機能低下による減量の問題です。具体的には降圧剤、抗潰瘍剤、抗精神病薬など持続投与中で、感冒や脱水から電解質異常をきたし、筋力低下→frailty→嚥下障害・食欲不振→低栄養→筋力低下、誤嚥→さらに肺炎、発熱、意識障害、せん妄、電解質異常、低栄養、筋力低下といったいわば悪循環に入り救急搬送となる事例が日常的に多数経験されます。

基幹型病院においても、在宅ケアで何ができるかをしっかり学ぶ必要があることが強調されておりました。

わが国での高齢化・医療需要総量のピークは全体、大都市圏では2030年頃といわれておりますが、津軽地域は人口動態とその構成から、2020年ころまでがピークの様です。地方における医師不足が叫ばれる中でではありますが、すでにピークに達しようとしているこの地域の様々な背景を勘案して、本人、家族の尊厳を最大限に尊重し、これを支援する医療機関でありたいものです。

臨床研究部長：石黒 陽



グループワーク



集合写真

# 「針刺し事故対策研修を開催しました」



針刺し事故とは、医療従事者が業務中に針やメスなどで受傷する事故のことです。

8月30日は職業感染制御研究会が「針刺し予防の日」に制定しています。当院感染対策チームも8月を針刺し対策強化週間に定めて活動しています。その一環として、8月22日、23日に、事故の現状と予防対策について、職員を対象に医療安全係と研修会を共同開催しました。

使用後の鋭利物で受傷すると、血液を介してB型肝炎ウイルスなどに感染する可能性があるため、患者様には感染症検査にご協力いただくことがあ

ります。

職種・経験による事故の起こしやすさ、病院内のどのような場所、どのような業務で起こりやすいのかなど全国的な事故調査結果と、当院で実際起きた事故報告といった内容から、参加者は自身と患者様を守るため正しく予防対策を行うことの大切さを再確認できたようです。

「針刺しゼロ」を目指して、今後も予防対策活動を継続して行きたいと考えています。



感染管理室：對馬 春子

## クラウンの講演会

9月21日、看護学校において「ホスピタル・クラウンの活動」と題して特別講演を開催しました。講師は、日本ホスピタル・クラウン協会理事長、プレジャー企画代表取締役会長の大棟耕介先生でした。先生は、サーカスや遊園地だけでなく、病院で入院中の子ども達に笑顔を届ける「ホスピタル・クラウン」の活動をされ、日本だけでなく海外での病院訪問も行っております。講演は、クラウンのパフォーマンスから始まりまし



た。DVDの中では小児病棟の長期療養している子ども達を訪問していました。ク



ラウンの訪問は、子ども達にとって一時苦しい治療から解放される楽しい時間となりとてもいい笑顔になっていました。『笑顔は伝播する』、病棟中が笑顔であふれていました。また講演の中で、知識・スキル・経験をもつことによって自分の心に余裕ができること、そうなることで周囲に目が届き、周りの状況に合わせられる、とも話していました。学生達は講演を聴いて、さらに自分を高めなければと感じたようでした。

教育主事：内山 恵史子

## 研修医便り

研修医 1年目の松尾亮平と申します。弘前大学臨床研修Cプログラムで1年目を国立病院で研修させていただいています。弘前市出身ですが高校卒業後、愛媛大学に進学しました。国立病院の研修医で唯一他大学の出身です。何年かぶりに弘前に帰ってきましたが、岩木山はきれいであり、魚はおいしいし改めていいところだな感じております。弘前をでてから必死に訛りを直したため、いまだ津軽弁になっていません。意味はわかります。

研修医となり半年がたちました。外科、整形外科、循環器内科にて研修をさせていただきました。物覚えが悪く、うまくいかないことも多いですが、どの科においても得難い経験をさせていただき毎日が非常に充実しています。町がキラキラして見えます。

1年間という短い間でございますが何卒よろしくお願ひいたします。

臨床研修医：松尾 亮平



# 外来診療一覽

## ◆外来医師診療一覽表 (2017年10月2日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本 秀樹	横田 貴志	熊本 秀樹	熊本 秀樹	熊本 秀樹
呼吸器科		中川 英之	山本 勝丸	中川 英之	山本 勝丸	中川 英之
		山本 勝丸	下山 亜矢子	下山 亜矢子	下山 亜矢子	下山 亜矢子
		下山 亜矢子	森本 武史	森本 武史	—	森本 武史
		—	石岡 佳子	—	—	—
消化器・血液内科		松木 明彦	佐竹 立	佐竹 立	松木 明彦	佐竹 立
		山口 公平	山口 公平	松木 明彦	山口 公平	山口 公平
		佐藤 年信	飯野 勢	佐藤 年信	佐竹 美和	佐藤 年信
		石黒 陽	石黒 陽	飯野 勢	石黒 陽	石黒 陽
小児科		杉本 和彦	佐藤 工	佐藤 啓	佐藤 工	杉本 和彦
		佐藤 啓	岡本 剛	弘野 浩司	岡本 剛	弘野 浩司
		梅津 英典	—	—	—	梅津 英典
外科		柴田 滋	山名 大輔	柴田 滋	山名 大輔	三上 勝也
乳腺外科		小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	櫻庭 弘康	小田桐 弘毅
整形外科	午前	黒瀬 理恵	秋元 博之	秋元 博之	リウマチ外来 黒瀬 理恵 一般外来は休診	秋元 博之
		佐々木 規博	佐々木 規博	佐々木 規博		黒瀬 理恵
	午後	飯尾 浩平	太田 聖也	飯尾 浩平	—	飯尾 浩平
脳神経外科		—	—	木村 正英	—	—
皮膚科	午前	熊野 高行	佐藤 正憲	佐藤 正憲	熊野 高行	熊野 高行
		佐藤 正憲	熊野 高行	熊野 高行	佐藤 正憲	佐藤 正憲
	午後	● 予約	● 手術/検査	● 予約	● 手術/検査	● 予約
泌尿器科	午前	大学 医師	大学 医師	大学 医師	大学 医師	大学 医師
	午後	検 査	検 査	手 術	検 査	手 術
産婦人科		田中 加奈子	丹藤 伴江	丹藤 伴江	● 妊婦健診 (一般外来休診)	湯澤 映
		湯澤 映	淵之上 康平	田中 加奈子		松村 由紀子
眼科		蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義
耳鼻咽喉科		西澤 尚徳	西澤 尚徳	—	西澤 尚徳	西澤 尚徳
		工藤 直美	—	—	—	—
放射線科	診断	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄
	治療	—	—	川口 英夫 (午後)	—	川口 英夫 (午後)
女性専用外来		杉本 菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	今 充	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

### 患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

## お知らせ

### 編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital  
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地  
TEL 0172-32-4311  
FAX 0172-33-8614  
URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>